

# 帝国が擁した精鋭部隊 不死の軍団

2007年に上映されたハリウッド映画300(スリーハンドレッド)。紀元前480年に、アケメネス朝ペルシャと300人のスパルタの兵士が戦った。テルモピュライの戦いを描いた映画です。シルクロード英雄列伝第5回のお話しは、この映画にも登場する、アケメネス朝の1万人の精鋭部隊「不死の軍団」です。

## 大帝國と不死の軍団

彼らは今にたとえると、アメリカのデルタ・フォースやグリーン・ベレーと言ったところでしょうか。広大な領土から選りすぐりの兵士を集め、戦闘中に一人が倒れてもすぐに代わりの兵士を補充し戦えたと言われています。

彼らは歴史上はアタナトイもしくは不死隊とも言われ、テルモピュライの戦いのみならず、バビロン侵攻やギリシャ戦争等、帝国の主要な戦争には必ず従軍しました。

不死の軍団は色々な土地からの兵士からなる多国籍部隊のため、様々な容姿で戦ったと言われています。例えば、エチオピア出身の兵士は、動物の毛皮を

まとっていたと言われています。

西アジア史の中に君臨した大帝國・アケメネス朝ペルシャは、最盛期には36の属州を支配し、西はエチオピア、ギリシャ、東はバキスタンまで支配した空前の帝国でした。

広大な領土を支配するため、各州に「王の耳」と呼ばれるサトラップ(総督)を置き、中央政府の決定事項を素早く伝達するための「王の道」を建造しました。アケメネス朝の都スーサから、現在のトルコにあるサルデイスまでの約2700kmを、7日間で早馬が交代しながら駆け抜けたと言われます。そしてこの「王の道」は、不死の軍団を始めとする帝国の軍隊の迅速な移動を可能にしたのです。

## アレキサンダー大王の進軍

アケメネス朝とアレキサンダー大王は、3つの大きな合戦を行いました。最初の戦いは、小アジアのグラニコス川の戦いです。紀元前334年、マケドニアからダーダネルス海峡を渡って小アジアに上陸した大王の軍を待ち受けていたのが、当時小アジアを支配していたアケメネス朝でした。ここで勝利した大王は、かねてからアケメネス朝の支配に不満を抱いていた小アジアの諸王国を手中に収めながら進軍します。そして翌年の紀元前333年、

イツソスの戦いでダリウス王と戦うこととなります。この戦いでも勝利した大王は、ダリウス王の母、妻、娘を捕虜としました。イツソスの古戦場は、現在のトルコ南部にあります。そして近郊には、トルコ語でアレキサンダーという意の「イスケンデルン」と言う町が現在でも残っています。

その後大王は、パレスチナを経由してエジプトへ向かい、自らをファラオと名乗ってからメソポタミアへと進軍します。そして紀元前331年、ガウガメラの戦いにてアケメネス朝を三度破り、ダ

リウス王は敗走しました。そしてペルセポリスを焼き払った後、バクトリア、ソグディアナ、ガンダーラと進軍し、インドへと向かったのです。

## 長槍密集方阵 フランクス

不死の軍団を擁し、圧倒的な軍事力をもったアケメネス朝を破ったアレキサンダー大王の強さは、その軍隊の陣形にありました。6メートルのサリッサ(長槍)を歩兵全員に持たせ、16人×16人の整列した歩兵を1シンタグマという部隊とし、いくつものシンタグマを展開して敵へと向かったのです。この陣形がフランクスです。

1部隊は最前列の歩兵が水平に槍を構え、後列に行く程槍に傾斜をつけて構え、まるで針鼠のような状態で戦いました。そして前列の歩兵が倒れても、後方の歩兵が前に出ることで、その陣形を保ったのです。

かつてギリシャ遠征でアテネまで落とされた、永遠の宿敵であったアケメネス朝を破ったアレキサンダー大王でしたが、敵の領地を進軍しながら、ア

不死の軍団を擁しながら、紀元前331年、アケメネス朝の大本営ペルセポリスはアレキサンダー大王によって火を放たれます。そして翌年の紀元前330年、220年続いた大帝國は、その歴史に終止符を打つのでした。



左/古代都市遺跡サルデイス(現トルコのイズミル近郊)。右/不死の軍団の彫刻(テヘラン考古学博物館)

ケメネス朝はただの野蛮な集団ではなかったことに気づきます。広大な領土をまとめた支配体制、そしてすぐれた文明をもった先進国であることを体感したのです。それはアケメネス朝は、支配した国の文化、宗教を尊び、決して力だけで支配しようとはせず、各地の優れた文化を取り入れていたことに大王は気づいたからでした。そして大王自身も、ペルシャの文化、風習を尊び、自身の軍にもその風習を取り入れようとした。

文明と文明が対峙した際、否定や破壊ではなく、お互いの文明を尊び融合させることが、今の世界にも大切なことを、ギリシャとアジアの二つの勢力は後世に残したのではないのでしょうか。



アレキサンダー大王と長槍部隊(ソグド州立博物館)

## 関連ツアーのご紹介



メソポタミア文明最高のジグラット「チョガザンビル」訪問  
**ペルシャ歴史紀行**  
東京・大阪発着 | 11日間



古代ソグディアナから、  
アムダリヤのほとりのテルメズへ  
**タジキスタンとテルメズの遺産**  
東京・大阪発着 | 9日間

## COLUMN アレキサンダー大王とダリウスの娘

アフガニスタン北部とタジキスタン南東部にまたがるバダフシャン地方。タジキスタンではゴルノバダフシャン自治州を形成しています。この地にはかつて、アレキサンダー大王とアケメネス朝の王女の間生まれた人々の末裔と自称する人々が住んでいました。マルコ・ポーロの東方見聞録にも登場するこの人々は、アレキサンダー大王の軍隊とアケメネス朝の女性が集団結婚した際の末裔と思われます。アレキサンダー大王自身も、紀元前324年にダリウス王の娘・スタティラを妃とし、スーサ(現在のイラン南西部フーゼスターン州)にて結婚式を挙げています。



写真: スーサで執り行われた、マケドニア王国のアレキサンダー大王とスタティラ、およびヘファイスティオンとドリュペティスとの合同結婚式